



## 国立映画アーカイブ開館記念

日本におけるロシア年2018

# ロシア・ソビエト映画祭

Inaugurating NFAJ:

Russian & Soviet Film Festival at the Year of Russia in Japan 2018

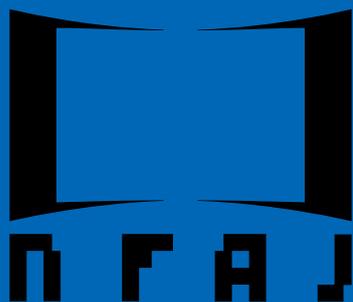
2018年7月10日(火) — 8月5日(日)  
7-8月の休館日▶▶▶月曜日、8月6日(月) — 13日(日)

主催: 国立映画アーカイブ

ロシア文化フェスティバル組織委員会

特別協力: モスフィルム、株式会社パンドラ、ローク

企画協力: 井上徹(エイゼンシュテイン・シネクラブ代表)



国立映画アーカイブ  
National Film Archive of Japan

東京国立近代美術館フィルムセンターは、  
2018年4月1日より国立映画アーカイブとなりました。



国立映画アーカイブ [2階]

長瀬記念ホール OZU

定員=310名(各回入替制・全席自由席)

前売券

6月26日(火)10時より、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各100席分)を販売します。各上映の前日23時59分まで販売。[Pコード:558-526]

前売料金:一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円

※「アナ・カレーニナ ヴロンスキーの物語」と「マチルダ」のみ下記の特別料金となります。

前売特別料金:一般1,500円/高校・大学生・シニア1,100円/小・中学生及び障害者(付添者は原則1名まで)520円

- ・別途発券手数料がかかります。
- ・各回の開映後の入場はできません。
- ・学生、シニア(65歳以上)の方は証明できるものをご提示下さい。
- ・チケット購入方法や発券手数料等については、4頁をお読みください。

当日券(発券=2階受付)

料金:一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円、障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブ及び東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズは無料

※「アナ・カレーニナ ヴロンスキーの物語」と「マチルダ」のみ下記の特別料金となります。

特別料金:一般1,500円/高校・大学生・シニア1,100円/小・中学生及び障害者(付添者は原則1名まで)520円/国立映画アーカイブ及び東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズ料金あり(教職員1,000円/学生900円)

◆当日券で入場される方には、開館と同時に、当日上映される全ての回の入場整理券を1階ロビーにて発券します。各日の開館時間については4頁のスケジュール欄をご覧ください。

- ・各回の開映後の入場はできません。
- ・当日券の発券は、定員に達し次第締切ります。
- ・学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示ください。
- ・当日券の発券は各回1名につき1枚のみです。

入場方法

- ①前売券をお持ちの方は、開場時(開映30分前)に、前売券に記載された整理番号順にご入場いただけます。
  - ②その後は、当日券の整理券をお持ちの方が、整理番号順にご入場いただけます。前売券をお持ちの方は、随時ご入場いただけます。
- 前売券・当日券は当日・当該回のみ有効です。

長瀬記念ホール OZU

## 上映作品

## 国立映画アーカイブ開館記念

日本におけるロシア年2018

## ロシア・ソビエト映画祭

Inaugurating NFAJ:  
Russian & Soviet Film Festival  
at the Year of Russia in Japan 2018

国立映画アーカイブでは、「日本におけるロシア年2018」に合わせ、ロシア文化フェスティバル組織委員会と共同で、当館では12年ぶりとなるロシア・ソビエト映画の特集上映を開催します。文化政策上の転換やそれに伴う創作への制約をたびたび経験しながらも、常に多彩な才能と多様な作品を生み出してきたロシア／ソビエト映画の中から、当館が所蔵する日本語字幕付きモスフィルム作品を中心に、24プログラム(29作品)を上映します。「社会主義リアリズム」時代の作品から、巨匠エイゼンシュテインの作品、チュプライやボンダルチュクら戦後の新しい波、文芸作品の映画化やノルシュテインのアニメーション、そして現代ロシア映画を率いるシャフナザーロフ監督とウチーチェリ監督の最新話題作まで、バラエティ豊かなロシア／ソビエト映画をお楽しみください。会期初めには、シャフナザーロフ監督とウチーチェリ監督の舞台挨拶も予定しています。皆さまの来場をお待ちしています。

- ⑤=監督 ⑥=原作・原案 ⑦=脚本・脚色 ⑧=撮影 ⑨=美術 ⑩=音楽 ⑪=出演 ⑫=解説・ナレーション
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 上映作品にはすべて日本語字幕が付いています。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。

1 7/13(金)3:00pm 7/25(木)7:00pm

## マクシムの青春(96分・35mm・白黒)

Юность Максима

『十月の冒険』(1924)以来、コンビで映画作りを続けていたコージンツェフとトラウベルグによる「マクシム三部作」の第一部。平凡な労働者のマクシム(チルコフ)が、日曜学校の教師ナターシャ(キバルジナ)に啓発され、職業革命家へと目覚めていく。本三部作は、1934年に「社会主義リアリズム」を唯一の芸術様式として公式化したソビエトにおける代表的な映画シリーズとなった。

1935(レンフィルム) ⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㏁㏂㏃㏄㏅㏆㏇㏈㏉㏊㏋㏌㏍㏎㏏㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿㐀㐁㐂㐃㐄㐅㐆㐇㐈㐉㐊㐋㐌㐍㐎㐏㐐㐑㐒㐓㐔㐕㐖㐗㐘㐙㐚㐛㐜㐝㐞㐟㐠㐡㐢㐣㐤㐥㐦㐧㐨㐩㐪㐫㐬㐭㐮㐯㐰㐱㐲㐳㐴㐵㐶㐷㐸㐹㐺㐻㐼㐽㐾㐿㑀㑁㑂㑃㑄㑅㑆㑇㑈㑉㑊㑋㑌㑍㑎㑏㑐㑑㑒㑓㑔㑕㑖㑗㑘㑙㑚㑛㑜㑝㑞㑟㑠㑡㑢㑣㑤㑥㑦㑧㑨㑩㑪㑫㑬㑭㑮㑯㑰㑱㑲㑳㑴㑵㑶㑷㑸㑹㑺㑻㑼㑽㑾㑿㒀㒁㒂㒃㒄㒅㒆㒇㒈㒉㒊㒋㒌㒍㒎㒏㒐㒑㒒㒓㒔㒕㒖㒗㒘㒙㒚㒛㒜㒝㒞㒟㒠㒡㒢㒣㒤㒥㒦㒧㒨㒩㒪㒫㒬㒭㒮㒯㒰㒱㒲㒳㒴㒵㒶㒷㒸㒹㒺㒻㒼㒽㒾㒿㓀㓁㓂㓃㓄㓅㓆㓇㓈㓉㓊㓋㓌㓍㓎㓏㓐㓑㓒㓓㓔㓕㓖㓗㓘㓙㓚㓛㓜㓝㓞㓟㓠㓡㓢㓣㓤㓥㓦㓧㓨㓩㓪㓫㓬㓭㓮㓯㓰㓱㓲㓳㓴㓵㓶㓷㓸㓹㓺㓻㓼㓽㓾㓿㔀㔁㔂㔃㔄㔅㔆㔇㔈㔉㔊㔋㔌㔍㔎㔏㔐㔑㔒㔓㔔㔕㔖㔗㔘㔙㔚㔛㔜㔝㔞㔟㔠㔡㔢㔣㔤㔥㔦㔧㔨㔩㔪㔫㔬㔭㔮㔯㔰㔱㔲㔳㔴㔵㔶㔷㔸㔹㔺㔻㔼㔽㔾㔿㕀㕁㕂㕃㕄㕅㕆㕇㕈㕉㕊㕋㕌㕍㕎㕏㕐㕑㕒㕓㕔㕕㕖㕗㕘㕙㕚㕛㕜㕝㕞㕟㕠㕡㕢㕣㕤㕥㕦㕧㕨㕩㕪㕫㕬㕭㕮㕯㕰㕱㕲㕳㕴㕵㕶㕷㕸㕹㕺㕻㕼㕽㕾㕿㖀㖁㖂㖃㖄㖅㖆㖇㖈㖉㖊㖋㖌㖍㖎㖏㖐㖑㖒㖓㖔㖕㖖㖗㖘㖙㖚㖛㖜㖝㖞㖟㖠㖡㖢㖣㖤㖥㖦㖧㖨㖩㖪㖫㖬㖭㖮㖯㖰㖱㖲㖳㖴㖵㖶㖷㖸㖹㖺㖻㖼㖽㖾㖿㗀㗁㗂㗃㗄㗅㗆㗇㗈㗉㗊㗋㗌㗍㗎㗏㗐㗑㗒㗓㗔㗕㗖㗗㗘㗙㗚㗛㗜㗝㗞㗟㗠㗡㗢㗣㗤㗥㗦㗧㗨㗩㗪㗫㗬㗭㗮㗯㗰㗱㗲㗳㗴㗵㗶㗷㗸㗹㗺㗻㗼㗽㗾㗿㘀㘁㘂㘃㘄㘅㘆㘇㘈㘉㘊㘋㘌㘍㘎㘏㘐㘑㘒㘓㘔㘕㘖㘗㘘㘙㘚㘛㘜㘝㘞㘟㘠㘡㘢㘣㘤㘥㘦㘧㘨㘩㘪㘫㘬㘭㘮㘯㘰㘱㘲㘳㘴㘵㘶㘷㘸㘹㘺㘻㘼㘽㘾㘿㙀㙁㙂㙃㙄㙅㙆㙇㙈㙉㙊㙋㙌㙍㙎㙏㙐㙑㙒㙓㙔㙕㙖㙗㙘㙙㙚㙛㙜㙝㙞㙟㙠㙡㙢㙣㙤㙥㙦㙧㙨㙩㙪㙫㙬㙭㙮㙯㙰㙱㙲㙳㙴㙵㙶㙷㙸㙹㙺㙻㙼㙽㙾㙿㚀㚁㚂㚃㚄㚅㚆㚇㚈㚉㚊㚋㚌㚍㚎㚏㚐㚑㚒㚓㚔㚕㚖㚗㚘㚙㚚㚛㚜㚝㚞㚟㚠㚡㚢㚣㚤㚥㚦㚧㚨㚩㚪㚫㚬㚭㚮㚯㚰㚱㚲㚳㚴㚵㚶㚷㚸㚹㚺㚻㚼㚽㚾㚿㜀㜁㜂㜃㜄㜅㜆㜇㜈㜉㜊㜋㜌㜍㜎㜏㜐㜑㜒㜓㜔㜕㜖㜗㜘㜙㜚㜛㜜㜝㜞㜟㜠㜡㜢㜣㜤㜥㜦㜧㜨㜩㜪㜫㜬㜭㜮㜯㜰㜱㜲㜳㜴㜵㜶㜷㜸㜹㜺㜻㜼㜽㜾㜿㝀㝁㝂㝃㝄㝅㝆㝇㝈㝉㝊㝋㝌㝍㝎㝏㝐㝑㝒㝓㝔㝕㝖㝗㝘㝙㝚㝛㝜㝝㝞㝟㝠㝡㝢㝣㝤㝥㝦㝧㝨㝩㝪㝫㝬㝭㝮㝯㝰㝱㝲㝳㝴㝵㝶㝷㝸㝹㝺㝻㝼㝽㝾㝿㞀㞁㞂㞃㞄㞅㞆㞇㞈㞉㞊㞋㞌㞍㞎㞏㞐㞑㞒㞓㞔㞕㞖㞗㞘㞙㞚㞛㞜㞝㞞㞟㞠㞡㞢㞣㞤㞥㞦㞧㞨㞩㞪㞫㞬㞭㞮㞯㞰㞱㞲㞳㞴㞵㞶㞷㞸㞹㞺㞻㞼㞽㞾㞿㟀㟁㟂㟃㟄㟅㟆㟇㟈㟉㟊㟋㟌㟍㟎㟏㟐㟑㟒㟓㟔㟕㟖㟗㟘㟙㟚㟛㟜㟝㟞㟟㟠㟡㟢㟣㟤㟥㟦㟧㟨㟩㟪㟫㟬㟭㟮㟯㟰㟱㟲㟳㟴㟵㟶㟷㟸㟹㟺㟻㟼㟽㟾㟿㠀㠁㠂㠃㠄㠅㠆㠇㠈㠉㠊㠋㠌㠍㠎㠏㠐㠑㠒㠓㠔㠕㠖㠗㠘㠙㠚㠛㠜㠝㠞㠟㠠㠡㠢㠣㠤㠥㠦㠧㠨㠩㠪㠫㠬㠭㠮㠯㠰㠱㠲㠳㠴㠵㠶㠷㠸㠹㠺㠻㠼㠽㠾㠿㡀㡁㡂㡃㡄㡅㡆㡇㡈㡉㡊㡋㡌㡍㡎㡏㡐㡑㡒㡓㡔㡕㡖㡗㡘㡙㡚㡛㡜㡝㡞㡟㡠㡡㡢㡣㡤㡥㡦㡧㡨㡩㡪㡫㡬㡭㡮㡯㡰㡱㡲㡳㡴㡵㡶㡷㡸㡹㡺㡻㡼㡽㡾㡿㢀㢁㢂㢃㢄㢅㢆㢇㢈㢉㢊㢋㢌㢍㢎㢏㢐㢑㢒㢓㢔㢕㢖㢗㢘㢙㢚㢛㢜㢝㢞㢟㢠㢡㢢㢣㢤㢥㢦㢧㢨㢩㢪㢫㢬㢭㢮㢯㢰㢱㢲㢳㢴㢵㢶㢷㢸㢹㢺㢻㢼㢽㢾㢿㣀㣁㣂㣃㣄㣅㣆㣇㣈㣉㣊㣋㣌㣍㣎㣏㣐㣑㣒㣓㣔㣕㣖㣗㣘㣙㣚㣛㣜㣝㣞㣟㣠㣡㣢㣣㣤㣥㣦㣧㣨㣩㣪㣫㣬㣭㣮㣯㣰㣱㣲㣳㣴㣵㣶㣷㣸㣹㣺㣻㣼㣽㣾㣿㤀㤁㤂㤃㤄㤅㤆㤇㤈㤉㤊㤋㤌㤍㤎㤏㤐㤑㤒㤓㤔㤕㤖㤗㤘㤙㤚㤛㤜㤝㤞㤟㤠㤡㤢㤣㤤㤥㤦㤧㤨㤩㤪㤫㤬㤭㤮㤯㤰㤱㤲㤳㤴㤵㤶㤷㤸㤹㤺㤻㤼㤽㤾㤿㥀㥁㥂㥃㥄㥅㥆㥇㥈㥉㥊㥋㥌㥍㥎㥏㥐㥑㥒㥓㥔㥕㥖㥗㥘㥙㥚㥛㥜㥝㥞㥟㥠㥡㥢㥣㥤㥥㥦㥧㥨㥩㥪㥫㥬㥭㥮㥯㥰㥱㥲㥳㥴㥵㥶㥷㥸㥹㥺㥻㥼㥽㥾㥿㦀㦁㦂㦃㦄㦅㦆㦇㦈㦉㦊㦋㦌㦍㦎㦏㦐㦑㦒㦓㦔㦕㦖㦗㦘㦙㦚㦛㦜㦝㦞㦟㦠㦡㦢㦣㦤㦥㦦㦧㦨㦩㦪㦫㦬㦭㦮㦯㦰㦱㦲㦳㦴㦵㦶㦷㦸㦹㦺㦻㦼㦽㦾㦿㧀㧁㧂㧃㧄㧅㧆㧇㧈㧉㧊㧋㧌㧍㧎㧏㧐㧑㧒㧓㧔㧕㧖㧗㧘㧙㧚㧛㧜㧝㧞㧟㧠㧡㧢㧣㧤㧥㧦㧧㧨㧩㧪㧫㧬㧭㧮㧯㧰㧱㧲㧳㧴㧵㧶㧷㧸㧹㧺㧻㧼㧽㧾㧿㨀㨁㨂㨃㨄㨅㨆㨇㨈㨉㨊㨋㨌㨍㨎㨏㨐㨑㨒㨓㨔㨕㨖㨗㨘㨙㨚㨛㨜㨝㨞㨟㨠㨡㨢㨣㨤㨥㨦㨧㨨㨩㨪㨫㨬㨭㨮㨯㨰㨱㨲㨳㨴㨵㨶㨷㨸㨹㨺㨻㨼㨽㨾㨿㩀㩁㩂㩃㩄㩅㩆㩇㩈㩉㩊㩋㩌㩍㩎㩏㩐㩑㩒㩓㩔㩕㩖㩗㩘㩙㩚㩛㩜㩝㩞㩟㩠㩡㩢㩣㩤㩥㩦㩧㩨㩩㩪㩫㩬㩭㩮㩯㩰㩱㩲㩳㩴㩵㩶㩷㩸㩹㩺㩻㩼㩽㩾㩿㪀㪁㪂㪃㪄㪅㪆㪇㪈㪉㪊㪋㪌㪍㪎㪏㪐㪑㪒㪓㪔㪕㪖㪗㪘㪙㪚㪛㪜㪝㪞㪟㪠㪡㪢㪣㪤㪥㪦㪧㪨㪩㪪㪫㪬㪭㪮㪯㪰㪱㪲㪳㪴㪵㪶㪷㪸㪹㪺㪻㪼㪽㪾㪿㫀㫁㫂㫃㫄㫅㫆㫇㫈㫉㫊㫋㫌㫍㫎㫏㫐㫑㫒㫓㫔㫕㫖㫗㫘㫙㫚㫛㫜㫝㫞㫟㫠㫡㫢㫣㫤㫥㫦㫧㫨㫩㫪㫫㫬㫭㫮㫯㫰㫱㫲㫳㫴㫵㫶㫷㫸㫹㫺㫻㫼㫽㫾㫿㬀㬁㬂㬃㬄㬅㬆㬇㬈㬉㬊㬋㬌㬍㬎㬏㬐㬑㬒㬓㬔㬕㬖㬗㬘㬙㬚㬛㬜㬝㬞㬟㬠㬡㬢㬣㬤㬥㬦㬧㬨㬩㬪㬫㬬㬭㬮㬯㬰㬱㬲㬳㬴㬵㬶㬷㬸㬹㬺㬻㬼㬽㬾㬿㭀㭁㭂㭃㭄㭅㭆㭇㭈㭉㭊㭋㭌㭍㭎㭏㭐㭑㭒㭓㭔㭕㭖㭗㭘㭙㭚㭛㭜㭝㭞㭟㭠㭡㭢㭣㭤㭥㭦㭧㭨㭩㭪㭫㭬㭭㭮㭯㭰㭱㭲㭳㭴㭵㭶㭷㭸㭹㭺㭻㭼㭽㭾㭿㮀㮁㮂㮃㮄㮅㮆㮇㮈㮉㮊㮋㮌㮍㮎㮏㮐㮑㮒㮓㮔㮕㮖㮗㮘㮙㮚㮛㮜㮝㮞㮟㮠㮡㮢㮣㮤㮥㮦㮧㮨㮩㮪㮫㮬㮭㮮㮯㮰㮱㮲㮳㮴㮵㮶㮷㮸㮹㮺㮻㮼㮽㮾㮿㯀㯁㯂㯃㯄㯅㯆㯇㯈㯉㯊㯋㯌㯍㯎㯏㯐㯑㯒㯓㯔㯕㯖㯗㯘㯙㯚㯛㯜㯝㯞㯟㯠㯡㯢㯣㯤㯥㯦㯧㯨㯩㯪㯫㯬㯭㯮㯯㯰㯱㯲㯳㯴㯵㯶㯷㯸㯹㯺㯻㯼㯽㯾㯿㰀㰁㰂㰃㰄㰅㰆㰇㰈㰉㰊㰋㰌㰍㰎㰏㰐㰑㰒㰓㰔㰕㰖㰗㰘㰙㰚㰛㰜㰝㰞㰟㰠㰡㰢㰣㰤㰥㰦㰧㰨㰩㰪㰫㰬㰭㰮㰯㰰㰱㰲㰳㰴㰵㰶㰷㰸㰹㰺㰻㰼㰽㰾㰿㱀㱁㱂㱃㱄㱅㱆㱇㱈㱉㱊㱋㱌㱍㱎㱏㱐㱑㱒㱓㱔㱕㱖㱗㱘㱙㱚㱛㱜㱝㱞㱟㱠㱡㱢㱣㱤㱥㱦㱧㱨㱩㱪㱫㱬㱭㱮㱯㱰㱱㱲㱳㱴㱵㱶㱷㱸㱹㱺㱻㱼㱽㱾㱿㲀㲁㲂㲃㲄㲅㲆㲇㲈㲉㲊㲋㲌㲍㲎㲏㲐㲑㲒㲓㲔㲕㲖㲗㲘㲙㲚㲛㲜㲝㲞㲟㲠㲡㲢㲣㲤㲥㲦㲧㲨㲩㲪㲫㲬㲭㲮㲯㲰㲱㲲㲳㲴㲵㲶㲷㲸㲹㲺㲻㲼㲽㲾㲿㳀㳁㳂㳃㳄㳅㳆㳇㳈㳉㳊㳋㳌㳍㳎㳏㳐㳑㳒㳓㳔㳕㳖㳗㳘㳙㳚㳛㳜㳝㳞㳟㳠㳡㳢㳣㳤㳥㳦㳧㳨㳩㳪㳫㳬㳭㳮㳯㳰㳱㳲㳳㳴㳵㳶㳷㳸㳹㳺㳻㳼㳽㳾㳿㴀㴁㴂㴃㴄㴅㴆㴇㴈㴉㴊㴋㴌㴍㴎㴏㴐㴑㴒㴓㴔㴕㴖㴗㴘㴙㴚㴛㴜㴝㴞㴟㴠㴡㴢㴣㴤㴥㴦㴧㴨㴩㴪㴫㴬㴭㴮㴯㴰㴱㴲㴳㴴㴵㴶㴷㴸㴹㴺㴻㴼㴽㴾㴿㵀㵁㵂㵃㵄㵅㵆㵇㵈㵉㵊㵋㵌㵍㵎㵏㵐㵑㵒㵓㵔㵕㵖㵗㵘㵙㵚㵛㵜㵝㵞㵟㵠㵡㵢㵣㵤㵥㵦㵧㵨㵩㵪㵫㵬㵭㵮㵯㵰㵱㵲㵳㵴㵵㵶㵷㵸㵹㵺㵻㵼㵽㵾㵿㶀㶁㶂㶃㶄㶅㶆㶇㶈㶉㶊㶋㶌㶍㶎㶏㶐㶑㶒㶓㶔㶕㶖㶗㶘㶙㶚㶛㶜㶝㶞㶟㶠㶡㶢㶣㶤㶥㶦㶧㶨㶩㶪㶫㶬㶭㶮㶯㶰㶱㶲㶳㶴㶵㶶㶷㶸㶹㶺㶻㶼㶽㶾㶿㷀㷁㷂㷃㷄㷅㷆㷇㷈㷉㷊㷋㷌㷍㷎㷏㷐㷑㷒㷓㷔㷕㷖㷗㷘㷙㷚㷛㷜㷝㷞㷟㷠㷡㷢㷣㷤㷥㷦㷧㷨㷩㷪㷫㷬㷭㷮㷯㷰㷱㷲㷳㷴㷵㷶㷷㷸㷹㷺㷻㷼㷽㷾㷿㸀㸁㸂㸃㸄㸅㸆㸇㸈㸉㸊㸋㸌㸍㸎㸏㸐㸑㸒㸓㸔㸕㸖㸗㸘㸙㸚㸛㸜㸝㸞㸟㸠㸡㸢㸣㸤㸥㸦㸧㸨㸩㸪㸫㸬㸭㸮㸯㸰㸱㸲㸳㸴㸵㸶㸷㸸㸹㸺㸻㸼㸽㸾㸿㹀㹁㹂㹃㹄㹅㹆㹇㹈㹉㹊㹋㹌㹍㹎㹏㹐㹑㹒㹓㹔㹕㹖㹗㹘㹙㹚㹛㹜㹝㹞㹟㹠㹡㹢㹣㹤㹥㹦㹧㹨㹩㹪㹫㹬㹭㹮㹯㹰㹱㹲㹳㹴㹵㹶㹷㹸㹹㹺㹻㹼㹽㹾㹿㺀㺁㺂㺃㺄㺅㺆㺇㺈㺉㺊㺋㺌㺍㺎㺏㺐㺑㺒㺓㺔㺕㺖㺗㺘㺙㺚㺛㺜㺝㺞㺟㺠㺡㺢㺣㺤㺥㺦㺧㺨㺩㺪㺫㺬㺭㺮㺯㺰㺱㺲㺳㺴㺵㺶㺷㺸㺹㺺㺻㺼㺽㺾㺿㻀㻁㻂㻃㻄㻅㻆㻇㻈㻉㻊㻋㻌㻍㻎㻏㻐㻑㻒㻓㻔㻕㻖㻗㻘㻙㻚㻛㻜㻝㻞㻟㻠㻡㻢㻣㻤㻥㻦㻧㻨㻩㻪㻫㻬㻭㻮㻯㻰㻱㻲㻳㻴㻵㻶㻷㻸㻹㻺㻻㻼㻽㻾㻿㼀㼁㼂㼃㼄㼅㼆㼇㼈㼉㼊㼋㼌㼍㼎㼏㼐㼑㼒㼓㼔㼕㼖㼗㼘㼙㼚㼛㼜㼝㼞㼟㼠㼡㼢㼣㼤㼥㼦㼧㼨㼩㼪㼫㼬㼭㼮㼯㼰㼱㼲㼳㼴㼵㼶㼷㼸㼹㼺㼻㼼㼽㼾㼿㽀㽁㽂㽃㽄㽅㽆㽇㽈㽉㽊㽋㽌㽍㽎㽏㽐㽑㽒㽓㽔㽕㽖㽗㽘㽙㽚㽛㽜㽝㽞㽟㽠㽡㽢㽣㽤㽥㽦㽧㽨㽩㽪㽫㽬㽭㽮㽯㽰㽱㽲㽳㽴㽵㽶㽷㽸㽹㽺㽻㽼㽽㽾㽿㿀㿁㿂㿃㿄㿅㿆㿇㿈㿉㿊㿋㿌㿍㿎㿏㿐㿑㿒㿓㿔㿕㿖㿗㿘㿙㿚㿛㿜㿝㿞㿟㿠㿡㿢㿣㿤㿥㿦㿧㿨㿩㿪㿫㿬㿭㿮㿯㿰㿱㿲㿳㿴㿵㿶㿷㿸㿹㿺㿻㿼㿽㿾㿿

2 7/12(木)3:00pm 7/28(土)4:00pm

## 最後の夜(96分・35mm・白黒)

Последняя ночь

1917年10月のモスクワにおける資本主義「最後の夜」の、労働者と工場主の家庭内のさまざまな出来事を通して、歴史の大転換期に生きた人々を描いた群像劇。監督のライズマンは本作以降、脚本家のガブリローヴィチと40年にわたり協働し、『マーシェンカ』(1942)や『コミュニスト』(1958)といった名作を生んだ。

1937(モスフィルム) ⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿㏁㏂㏃㏄㏅㏆㏇㏈㏉㏊㏋㏌㏍㏎㏏㏐㏑㏒㏓㏔㏕㏖㏗㏘㏙㏚㏛㏜㏝㏞㏟㏠㏡㏢㏣㏤㏥㏦㏧㏨㏩㏪㏫㏬㏭㏮㏯㏰㏱㏲㏳㏴㏵㏶㏷㏸㏹㏺㏻㏼㏽㏾㏿㐀㐁㐂㐃㐄㐅㐆㐇㐈㐉㐊㐋㐌㐍㐎㐏㐐㐑㐒㐓㐔㐕㐖㐗㐘㐙㐚㐛㐜㐝㐞㐟㐠㐡㐢㐣㐤㐥㐦㐧㐨㐩㐪㐫㐬㐭㐮㐯㐰㐱㐲㐳㐴㐵㐶㐷㐸㐹㐺㐻㐼㐽㐾㐿㑀㑁㑂㑃㑄㑅㑆㑇㑈㑉㑊㑋㑌㑍㑎㑏㑐㑑㑒㑓㑔㑕㑖㑗㑘㑙㑚㑛㑜㑝㑞㑟㑠㑡㑢㑣㑤㑥㑦㑧㑨㑩㑪㑫㑬㑭㑮㑯㑰㑱㑲㑳㑴㑵㑶㑷㑸㑹㑺㑻㑼㑽㑾㑿㒀㒁㒂㒃㒄㒅㒆㒇㒈㒉㒊㒋㒌㒍㒎㒏㒐㒑㒒㒓㒔㒕㒖㒗㒘㒙㒚㒛㒜㒝㒞㒟㒠㒡㒢㒣㒤㒥㒦㒧㒨㒩㒪㒫㒬㒭㒮㒯㒰㒱㒲㒳㒴㒵㒶㒷㒸㒹㒺㒻㒼㒽㒾㒿㓀㓁㓂㓃㓄㓅㓆㓇㓈㓉㓊㓋㓌㓍㓎㓏㓐㓑㓒㓓㓔㓕㓖㓗㓘㓙㓚㓛㓜㓝㓞㓟㓠㓡㓢㓣㓤㓥㓦㓧㓨㓩㓪㓫㓬㓭㓮㓯㓰㓱㓲㓳㓴㓵㓶㓷㓸㓹㓺㓻㓼㓽㓾㓿㔀㔁㔂㔃㔄㔅㔆㔇㔈㔉㔊㔋㔌㔍㔎㔏㔐㔑㔒㔓㔔㔕㔖㔗㔘㔙㔚㔛㔜㔝㔞㔟㔠㔡㔢㔣㔤㔥㔦㔧㔨㔩㔪㔫㔬㔭㔮㔯㔰㔱㔲㔳㔴㔵㔶㔷㔸㔹㔺㔻㔼㔽㔾㔿㕀㕁㕂㕃㕄㕅㕆㕇㕈㕉㕊㕋㕌㕍㕎㕏㕐㕑㕒㕓㕔㕕㕖㕗㕘㕙㕚㕛㕜㕝㕞㕟㕠㕡㕢㕣㕤㕥㕦㕧㕨㕩㕪㕫㕬㕭㕮㕯㕰㕱㕲㕳㕴㕵㕶㕷㕸㕹㕺㕻㕼㕽㕾㕿㖀㖁㖂㖃㖄㖅㖆㖇㖈㖉㖊㖋㖌㖍㖎㖏㖐㖑㖒㖓㖔㖕㖖㖗㖘㖙㖚㖛㖜㖝㖞㖟㖠㖡㖢㖣㖤㖥㖦㖧㖨㖩㖪㖫㖬㖭㖮㖯㖰㖱㖲㖳㖴㖵㖶㖷㖸㖹㖺㖻㖼㖽㖾㖿㗀㗁㗂㗃㗄㗅㗆㗇㗈㗉㗊㗋㗌㗍㗎㗏㗐㗑㗒㗓㗔㗕㗖㗗㗘㗙㗚㗛㗜㗝㗞㗟㗠㗡㗢㗣㗤㗥㗦㗧㗨㗩㗪㗫㗬㗭㗮㗯㗰㗱㗲㗳㗴㗵㗶㗷㗸㗹㗺㗻㗼㗽㗾㗿㘀㘁㘂㘃㘄㘅㘆㘇㘈㘉㘊㘋㘌㘍㘎㘏

13 7/18(水)3:00pm 7/28(土)1:00pm

### 娘たち (96分・35mm・白黒) Девчата

シベリアの村でコックとして働き始めたトーシャ (ルミヤンツェフ)は、素直で明るい女の子。男の子のイヤ(リュブニコフ)に親しきされ、これが恋だと大喜び。やがてそれは、イヤとその悪友たちによる悪戯であることが分り、トーシャは彼との絶交を決意する。だがこの時、イヤは本当にトーシャを好きになっていた…。心温まるロマンティック・コメディ。

1962(モスフィルム)◎ユーリー・チュリュキン◎◎ボリス・ペードヌイ◎チモフェイ・レベシェフ◎ユーリー・ライズマン◎アレクサンドラ・バフマトワ◎ナデージダ・ルミヤンツェワ、ニコライ・リュブニコフ、リュシエナ・オフチンニコワ、スタニスラフ・ヒトロフ、インナ・マカロワ、スヴェトラナ・ドルジナ

14 7/18(水)7:00pm 7/29(日)4:00pm

### 復活 後篇 (107分・35mm・カラー)

Воскресение (2-я серия)

カチューシャ(ショミナ)の置かれた過酷な状況に責任を感じたネフリュドフ(マトヴェエフ)は、彼女との結婚を決意しシベリアへ向かう。そして、彼女への扱いを刑事犯から政治犯に変え、労働の負担を軽減させる。しかし、政治犯の若者シモンソン(グーセフ)からカチューシャとの結婚を告白され、ネフリュドフは新たな悩みを苦しむことになる…。

1962(モスフィルム)◎◎ミハイル・シヴェイツェル◎レフ・トルストイ◎エヴゲニー・ガブリローヴィチ◎セルゲイ・ポルヤノフ◎アブラム・フレイジン◎ゲオルギー・スヴィリドフ◎タマラ・ショミナ、エヴゲニー・マトヴェエフ、ニコライ・セルゲエフ、アナスタシヤ・ズーエヴァ、ワシリー・リフノフ、ウラジーミル・グーセフ、クララ・ルミヤノフ

15 7/12(木)7:00pm 7/25(金)3:00pm 8/4(土)4:00pm

### 僕の村は戦場だった (95分・35mm・白黒)

Иваново детство

タルコフスキーの長篇第一作。ドイツ軍の長攻めにより家族を失った12歳の少年イワン(ブルリャエフ)が、祖国のために進んでバルチザンに参加し危険な任務に身を投じていく姿が、詩情豊かに描かれる。1962年ヴェネツィア国際映画祭サン・マルコ金獅子賞受賞。

1962(モスフィルム)◎アンドレイ・タルコフスキー◎◎ウラジーミル・ポゴモロフ◎◎ミハイル・パーヴェル◎ウラジーミル・ユンツォフ◎エヴゲニー・チェルナーエフ◎ヴァチエスラフ・オフチンニコフ◎コリーヤ(ニコライ)・ブルリャエフ、ウレンチナ・ズブコフ、エヴゲニー・ジャリコフ、ステパン・クルイロフ、ニコライ・グリニコ、ドミトリー・ミリュテンコ、ウレンチナ・マリヤヴィナ、イリーナ・タルコフスカヤ

16 7/19(水)3:00pm 8/5(日)1:00pm

### ユーリー・ノルシュテイン選集

(計80分・DCP・カラー)

アニメーション作家ユーリー・ノルシュテイン(1941-)が世界的名声を確立した作品の選集。1920年代の前衛芸術を引用し、ショスタコーヴィチの革命交響楽に乗せてロシア革命を描く『25日・最初の日』、リムスキー=コルサコフのオペラ『見えざる町キータジ』に基づき、15～16世紀のフレスコ画や細密画を用いて戦乱と文化衝突を表現した『ケルジェネツの戦い』、民衆絵画のモチーフを生き活きと動かしロシアのポピュラーな民話を語る『キツネとウサギ』、日本の浮世絵や水墨画の要素を取り入れてもどかしい恋模様を描く『アオサギとツル』、原作の児童文学を大胆に拡張し、驚きと幻想美に満ちた世界を実現した『霧の中のハリネズミ』、ノルシュテインの幼少期の記憶を掘り下げ昇華した映像詩『話の話』の全6本。

### 25日・最初の日 (9分・DCP・カラー)

25-e — первый день

1968(ソユズムリフィルム)◎◎ユーリー・ノルシュテイン、アルカージー・チューリン◎◎ウラジーミル・サルハーノフ◎◎ドミトリー・ショスタコーヴィチ

### ケルジェネツの戦い (10分・DCP・カラー)

Сеча при Керженце

1971(ソユズムリフィルム)◎◎イワン・イワノフ◎ワノー◎ユーリー・ノルシュテイン◎◎ウラジーミル・サルハーノフ◎◎マリナ・ソコロワ、アルカージー・チューリン◎ニコライ・リムスキー=コルサコフ

### キツネとウサギ (12分・DCP・カラー) Лиса и заяц

1973(ソユズムリフィルム)◎◎ユーリー・ノルシュテイン◎◎テオドール・フニモヴィチ◎◎フランチェスカ・ヤールソフ◎◎ミハイル・メエローヴィチ◎◎ヴィクトル・ホフリアコフ

### アオサギとツル (10分・DCP・カラー)

Цапля и журавль

1974(ソユズムリフィルム)◎◎ユーリー・ノルシュテイン◎◎ロマン・カチャーノフ◎◎アレクサンドル・ジュコーフスキー◎◎フランチェスカ・ヤールソフ◎◎ミハイル・メエローヴィチ◎◎インノケンチー・スモクトゥノフスキー

### 霧の中のハリネズミ (10分・DCP・カラー)

Ёжик в тумане

1975(ソユズムリフィルム)◎◎ユーリー・ノルシュテイン◎◎セルゲイ・コスロフ◎◎アレクサンドル・ジュコーフスキー◎◎フランチェスカ・ヤールソフ◎◎ミハイル・メエローヴィチ◎◎ヴァチエスラフ・ネヴィンヌイ、マリヤ・ヴィノグラドワ◎◎アレクセイ・バターロフ

### 話の話 (29分・DCP・カラー) Сказка сказок

1979(ソユズムリフィルム)◎◎ユーリー・ノルシュテイン◎◎リュドミーラ・ベトルシェフスカヤ◎◎イーゴリ・スキダネフ◎◎ボース・フランチェスカ・ヤールソフ◎◎ミハイル・メエローヴィチ、ヨハン・セバスチャン・バッハ、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト◎◎アレクサンドル・カリヤギン

17 7/19(木)7:00pm 7/27(金)3:00pm

### 五つの夜に (102分・35mm・パートカラー)

Пять вечеров

戦争に引き裂かれ、そのまま17年間離れ離れになった男女が再会する。今は中年となった二人の五夜の描写を通して、戦争の傷と互いの隔たりが浮き彫りになる。ミルコフが『オペラ・モフの生涯より』(1980)の撮影中断期間を利用して1か月ほど撮った、哀愁と抒情に満ちた小品。

1979(モスフィルム)◎◎ニキータ・ミハコフ◎◎アレクサンドル・ヴォロジン◎◎アレクサンドル・アダバシヤ◎◎パーヴェル・レーベシェフ◎◎アレクサンドル・サムレキン◎◎マイヤ・アバル・パノフスカヤ◎◎リュドミーラ・クルチェンコ、スタニスラフ・リュプシン、ウレンチナ・テリチキナ、ラリーサ・クスネツォワ、イーゴリ・ネフォードフ

18 7/21(土)4:00pm 8/1(水)3:00pm

### アンナ・パブロワ (134分・35mm・カラー)

Анна Павлова

不世出のバレリーナ、アンナ・パブロワの伝記映画。幼少期から50歳で最期を迎えるまでの生涯が描かれる。ソ連と英国による合作で、バレエ映画の傑作『赤い靴』(1948)で知られるマイケル・パウエルがプロデューサーを務めている。「瀕死の白鳥」をはじめ『ジゼル』、「白鳥の湖」、「コッペリア」、「イーゴリ公」などのバレエ上演場が壮観。

1983(モスフィルム)◎◎ソヴィン・フィルム◎◎ボセイドン・フィルムズ◎◎エミリー・ロチャヌー◎◎エヴゲニー・グスリンスキー◎◎ウラジーミル・ナハツェフ◎◎ボリス・ブランク◎◎エヴゲニー・ドガ◎◎ガリーナ・ペリャエワ、ジェイムズ・フォックス、セルゲイ・シャクローフ、フェヴオロド・ラリオーフ、リーナ・ブルダコフ、ゲオルグ・ティミトリウ、マーティン・スコセッシ

19 7/22(日)12:00pm 8/2(木)3:00pm

### 転校生レナ (125分・35mm・カラー) Чучело

モスクワから祖父のいる地方の学校に転校してきた13歳の少女レナ(オルバカイテ)。優等生のジーマ(エゴロフ)に優しくされたのが嬉しくて、慣れない学校への登校も苦痛ではなかった。しかし、教師に告げ口をした彼をかばったことから、レナは激しいいじめの対象にされてしまい、ジーマも見て見ぬふりをしてしまう…。ペレストロイカ以前の教育現場を描いた社会派ドラマ。

1984(モスフィルム)◎◎◎ロラン・ブイコフ◎◎ウラジーミル・ジュレスニコフ◎◎アナトリー・ムカセイ◎◎エヴゲニー・マルコヴィチ◎◎ソフィア・グバイドウリーナ◎◎クリスチーナ・オルバカイテ、ユーリー・ニクロー、ミーチャ(ドミトリー)・エゴロフ、エレナ・サナーエフ

20 7/20(金)3:00pm 8/1(水)7:00pm

### 未来への伝言 (111分・35mm・カラー) Шаг

1961年、ソ連から超法規的措置で生ワクチンが輸入され、日本のポリオ禍は鎮静化へと向かう。松山善三監督『われ一粒の麦なれど』(1964)にも描かれたこの出来事に至る経緯を、生ワクチンの緊急輸入を訴えて奔走した母親・圭子(栗原)の視点から描く。監督のミッタは、本作に先立つ日ソ合作映画『モスクワわが愛』(1973)でも栗原小巻を演出した。

1989(モスフィルム)◎◎仕事◎◎アレクサンドル・ミッタ◎◎岩間芳樹、ピクトル・メレシコ、ウラジーミル・ツヴェートフ◎◎ワレリー・シュヴァーロフ◎◎坂口岳夫、イーゴリ・レムシェフ◎◎アルフレート・シュニトケ◎◎栗原小巻、レオニード・フィラトフ、オレク・タバコフ、内藤武敏、久米明、エレナ・ヤコヴレワ、ウラジーミル・イリイン

21 7/22(日)3:30pm 8/3(金)3:00pm

### 令嬢ターニヤ (149分・35mm・カラー)

Ингерасовка

昼は看護師、夜は娼婦という二重生活を送るターニヤ(ヤコブレワ)は、顧客のスウェーデン人から求婚される。だが、憧れの豊かな海外生活をつかむには、乗り越えねばならない数多くの障害—父との確執、金銭、自分の過去—があった。当時のソ連社会の一面を描いた本作は国内で大ヒットし、主演のヤコブレワを一躍スターに押し上げた。第3回東京国際映画祭審査員特別賞、最優秀女優賞受賞。

1989(モスフィルム)◎◎フィルムスターレット◎◎ビョートル・トドロフスキー◎◎ウラジーミル・クニン◎◎ワレリー・シュワロフ◎◎フレンチン・コノワロフ◎◎エレナ・ヤコヴレワ、トマス・ラウスチオラ、ラリーサ・マレフナヤ、アナスタシヤ・ネモリヤエフ、リュボフィ・ポリシチュク、インゲボルガ・ダブクナイテ、イリーナ・ロザノフ

22 7/20(金)6:30pm 8/5(日)3:30pm

### フルスタリョフ、車を! (146分・35mm・白黒)

Хрусталёв, машину!

1953年冬、のちに「医師団陰謀事件」と呼ばれる事件に巻きこまれて逮捕されたクレンスキー将軍(ツリロ)は、なぜか釈放され、とある人物のもとへ送られる。反ユダヤキャンペーンが猛威を振るう、断末魔のスターリン独裁を背景としたこの映画は、時代のグロテスクさを具現化したかのような映像と音響の洪水が、つぶてのように観る者を襲い感乱する。寡作の巨匠ゲルマンによる、1990年代世界映画最重要作品の一つ。

1998(ソダベラガ)◎◎セッ・シネマ◎◎ゴスキノ◎◎レンフィルム◎◎PIEF◎◎アレクセイ・ゲルマン◎◎スヴェトラナ・カマリタ◎◎ウラジーミル・イリイン◎◎ウラジーミル・スヴェトザロフ◎◎アンドレイ・ペトロフ◎◎ユーリー・ツリロ、ニータルズノフ、ミハイル・テムンチエフ、エリー・ヤルヴェト、ジュニア、アレクサンドル・バシロフ、イワン・マツケヴィチ、アリ・ミシロフ

23 7/10(水)6:30pm

### アンナ・カレニナ ヴロンスキーの物語

(138分・DCP・カラー)

Анна Каренина. История Вронского

『ジャズメン』(1984)『ゼロシティ』(1988)などが日本でも劇場公開され、現モスフィルムCEOでもあるシャフナザーロフの最新作。日露戦争で負傷し軍病院に入院したヴロンスキー(マトヴェエフ)が、病院長のセルゲイ(キシチェンコ)に、セルゲイの母アンナ(ボヤルスカヤ)との間に何があったのかを語る。トルストイの原作をベースに、20世紀前半に活躍した作家ヴィケンチー・ヴェレサエフの日露戦争文学の要素をまじえて物語世界を展開。

2017(モスフィルム)◎◎◎カレン・シャフナザーロフ◎◎レフ・トルストイ◎◎アレクセイ・ブジン◎◎アレクサンドル・クスネツォフ◎◎セルゲイ・フェヴラリョフ、ユリヤ・マクシナ◎◎ユーリー・ポテエニコフ◎◎エリザヴェータ・ボヤルスカヤ、マクシム・マトヴェエフ、ヴィクトリー・キシチェンコ、キリル・グレンシニコフ、ウラジーミル・イリイン

© Mosfilm Cinema Concern, 2017

24 7/11(水)7:00pm

### マチルダ (107分・DCP・カラー) Матильда

ロシア帝国最後の皇帝ニコライ2世(アイディンガー)と、バレエ史にその名を刻む名バレリーナ、マチルダ・クシェシンスカヤ(オルシャンスカ)の、若き日の悲恋を絢爛たる色彩で描く。世界的に注目を集めるポーランドの新進女優M・オルシャンスカが主演し、米国の映画音楽家M・ペルトラミが参加するなど国際色も豊か。

2017(ローク)◎◎アレクセイ・ウチーチェリ◎◎アレクサンドル・テレホフ◎◎ユーリー・クリメンコ◎◎ヴェラ・ゼリンスカヤ、エレナ・ジュエコフ、パーヴェル・ゼミヤンスキー◎◎マルコ・ペルトラミ◎◎ミハリーナ・オルシャンスカ、ラルス・アイディンガー、ルイーゼ・ヴォルフラム、ダニラ・コスロフスキー、インゲボルガ・ダブクナイテ、セルゲイ・ガルマシ



令嬢ターニヤ

月	火	水	木	金	土	日
7月	9 4 アレクサンドル・ネフスキー 3:00pm (108分)	11 9 誓いの休暇 3:00pm (87分)	12 2 最後の夜 3:00pm (96分)	13 1 マクシムの青春 3:00pm (96分)	14 5 政府委員 1:00pm (103分)	15 6 イワン雷帝 第1部 1:00pm (99分)
	23 アンナ・カレリーナ ヴロンスキーの物語 6:30pm (138分) *ゲストによる舞台挨拶あり	24 マチルダ 7:00pm (107分) *ゲストによる舞台挨拶あり	15 僕の村は戦場だった 7:00pm (95分)	3 マクシムの帰還 7:00pm (104分)	10 人間の運命 4:00pm (101分)	7 イワン雷帝 第2部 4:00pm (85分)
	8 鶴は翔んでゆく 3:00pm (96分)	13 娘たち 3:00pm (96分)	16 ユーリー・ノルシュテイン 選集 3:00pm (計80分)	20 未来への伝言 3:00pm (111分)	11 ホヴァンシチナ 12:30pm (131分)	19 転校生レナ 12:00pm (125分)
	12 復活 前篇 7:00pm (99分)	14 復活 後篇 7:00pm (107分)	17 五つの夜に 7:00pm (102分)	22 フルスタリョフ、車を! 6:30pm (146分)	18 アンナ・パブロワ 4:00pm (134分)	21 令嬢ターニャ 3:30pm (149分)
23	5 政府委員 3:00pm (103分)	15 僕の村は戦場だった 3:00pm (95分)	10 人間の運命 3:00pm (101分)	17 五つの夜に 3:00pm (102分)	13 娘たち 1:00pm (96分)	12 復活 前篇 1:00pm (99分)
30	9 誓いの休暇 7:00pm (87分)	1 マクシムの青春 7:00pm (96分)	3 マクシムの帰還 7:00pm (104分)	4 アレクサンドル・ネフスキー 7:00pm (108分)	2 最後の夜 4:00pm (96分)	14 復活 後篇 4:00pm (107分)
	6 イワン雷帝 第1部 3:00pm (99分)	18 アンナ・パブロワ 3:00pm (134分)	19 転校生レナ 3:00pm (125分)	21 令嬢ターニャ 3:00pm (149分)	9 誓いの休暇 1:00pm (87分)	16 ユーリー・ノルシュテイン 選集 1:00pm (計80分)
	7 イワン雷帝 第2部 7:00pm (85分)	20 未来への伝言 7:00pm (111分)	8 鶴は翔んでゆく 7:00pm (96分)	11 ホヴァンシチナ 7:00pm (131分)	15 僕の村は戦場だった 4:00pm (95分)	22 フルスタリョフ、車を! 3:30pm (146分)

■ 作品によって開映時間が異なりますのでご注意ください。

**ゲスト舞台挨拶のお知らせ**

日時:7月10日(火)6:30pm『アンナ・カレリーナ ヴロンスキーの物語』の回  
上映前にヴィタリー・キシチェンコさんの挨拶があります。

日時:7月11日(水)7:00pm『マチルダ』の回  
上映前にアレクセイ・ウチャーチェリ監督の挨拶があります。

\*逐次通訳つき  
\*トークイベントのみの参加はできません。

**NFAJ デジタル展示室**  
下記ホームページからお入りください  
<http://www.nfaj.go.jp/digital-gallery>

**常設展ギャラリートーク**  
毎月第一土曜日12時より(休室の場合は第二土曜日)  
7月7日、8月4日

**展示室(7階)**

**【企画展】**  
国立映画アーカイブ開館記念  
没後20年 旅する黒澤明  
横田寿文ポスター・コレクションより  
Inaugurating NFAJ:  
Kurosawa Travels around the World  
The Masterworks in Posters from the Collection of Toshifumi Makita  
2018年4月17日(火)~9月23日(日)  
\*月曜日、8月7日(火)~12日(日)、9月4日(火)~7日(金)は休室です。  
国立映画アーカイブの開館記念企画となる本展覧会では、黒澤明研究家・横田寿文氏のコレクションから、世界約30か国にわたる黒澤映画のポスター 84点を中心に、海外とのかかわりを示す資料も展示し、その卓越した国際性に光を当てます。各国のデザイナーや画家たちの、作品の力感に沿った筆致や大胆で前衛的な解釈とともに(世界言語)としての黒澤映画をぜひ体感してください。  
\*詳細は当該チラシまたは国立映画アーカイブのホームページをご覧ください。

**【常設展】**企画展に併設  
NFAJコレクションでみる  
日本映画の歴史  
Nihon Eiga: The History of Japanese Film  
From the NFAJ Non-film Collection  
[Captions in Japanese, English, Chinese and Korean]

開室時間=午前11時~午後6時30分(入室は午後6時まで)  
※毎月未金曜日は午前11時~午後8時(入室は午後7時30分まで)  
料金(常設展・関連企画共通)=一般250円(200円)/大学生130円(60円)/シニア・高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、国立映画アーカイブ及び東京国立近代美術館のキャンパスメンバーズは無料  
\*( )内は20名以上の団体料金です。  
\*学生、シニア(65歳以上)、障害者、キャンパスメンバーズの方は、証明できるものをご提示下さい。  
\*国立映画アーカイブが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。

**前売券の購入方法**

[Pコード:558-526]

チケットぴあのお店、セブンイレブン、サークルKサンクスで購入  
⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円がかかります。

受付電話(0570-02-9999)で購入  
⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円がかかります。  
\*毎週火・水2時30分~5時30分はシステムメンテナンスのため受付休止となります。

チケットぴあのサイト(<http://w.pia.jp/t/nfaj-russia/>)で購入  
⇒前売料金に加え、1枚につき発券手数料108円、また決済方法によって1件につき決済手数料がかかる場合があります。  
●手数料等の詳細については、上記チケットぴあのウェブサイトをご覧ください。  
●前売券の払い戻し、交換、再発行はいたしません。

販売期間:6月26日(火)10時から各プログラムの上映の前日23時59分まで

2階受付では、「NFAJニュースレター」(季刊)を販売しています。これは、国立映画アーカイブのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルムアーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

国立映画アーカイブは、国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。  
FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

**fiaf**

国立映画アーカイブ 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6  
▼交通:  
東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口2から昭和通り方向へ徒歩1分  
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分  
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ:ハローダイヤル03-5777-8600  
ホームページ: [www.nfaj.go.jp](http://www.nfaj.go.jp)